

委員会名	2024年度 第5回 生産技術委員会
開催日時	2024年12月6日 13:30-16:00
開催場所	秋田大学手形キャンパス L-208、N-317 会議室 (Teams ハイブリッド開催)
出席者 (敬称略)	(現地) 山崎、阿部、上谷、久々宇、巳波、中島、今井、村上、荒木、根本 (オンライン) 飯野、池田、矢島、中田、山田、船橋、椋平、谷口
議事	<p>1. 事務報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員名簿変更なし。(資料1)</li> <li>・石油技術委員会協会賞選考委員は上谷委員と中島委員が再任された。</li> </ul> <p>2. 幹事会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今井委員より、幹事会議事概要(第89期8回)が報告された。</li> <li>・内容は第89期第8回幹事会議事資料.pdf(資料2)を参照のこと。</li> </ul> <p>3. 理事会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の委員会以降で理事会が開催されていないため報告なし。</li> </ul> <p>4. 2025年度春季シンポジウムテーマについて</p> <p>山崎委員より進捗報告があった。各社から講演アイデアを募ったところ、①既存E&amp;P開発をテーマとして各社から講演形式で発表すること、②人材関係のテーマで企業・大学・関係団体(夏の学校事務局の学生等含め)から小セッション形式にて各15分程度で発表すること、③小セッション内でパネルディスカッションや座談会を実施する、といった方向性が提案された。</p> <p><b>Q&amp;A</b></p> <p>(村上委員長) 業界に人材が足りていない状況がある。今後の国内CCSを見据えても各社人材不足の課題を抱えていると思われる。</p> <p>(中島委員) 博士課程まで進む学生が足りていないと聞く。大学と企業の連携も課題になっていると思われる。</p> <p>(巳波委員) 各社の状況を知る機会として良い機会だと思われる。学生や若手社員が参加する場なので彼らから積極的に質問してもらえることを期待したい。</p> <p>(久々宇委員) 業界内で議論していても課題が出るだけで解決策を見出すのは難しい気がする。業界外からの意見を伺うアプローチも必要ではないかと思う。</p> <p>(根本委員) 貯留層技術者・生産技術者は日本において希少な職種である。その様な希少な職種を業界外から確保する方法などは人材会社などにもノウハウがあるかもしれない。また、若い方に向けては貯留層・生産技術者がどのような仕事をするのかというロールモデル的なものを示せると良いセッションになると思う。</p> <p>(今井委員) 聴講者側も他業界の人を誘った方が良いと感じた。どうしても業界内の人間のパイは小さいので、CCSなどの大きなプロジェクトを実行するためには業界外からの人員の流入が必要だと思われる。そのためにもこのような機会を利用することは重要だと思われる。</p> <p>(荒木委員) 人材確保は各社共通の課題意識だと思われ、業界に関心を持つ人の母数を増やす必要がある。組織に入ってからの人材育成にも魅力を感じてもらえれば、より有意義だと思われる。</p> <p>(矢島委員) 既存開発の講演数が少し足りないので、現在講演を予定されている企業以外に具体的にどのような発表者が良いと思われるか委員会でアンケートを取るなどしても良いと思う。</p> <p>(村上委員長) 4足歩行ロボットを会場に呼ぶこともできるかもしれない。集客効果を期待できる。</p>

5. 次回開催場所案内  
・次回は1月9日にJOEにて委員会開催予定。

	2024		2023
第1回	5月9日(木)	JOGMEC	JOGMEC
第2回	7月4日(木)	INPEX	INPEX
第3回	9月5日(木)	JX	JX
第4回	11月1日(金)	東北大学	九州大学
第5回	12月6日(金)	秋田大学	京都大学
第6回	1月9日(木)	JOE	出光
第7回	3月6日(木)	JAPEX	JAPEX

6. 話題提供  
秋田大学学生による研究紹介
- ① 高含水率坑井を対象としたエマルジョンとポリマーゲルを用いた選択的遮水剤の開発
  - ② 粘弾性物質を用いた石油回収率増加に向けた実験的検討

以上

委員会報告書